

穴水町における地域資源「ボラ待ち櫓」の修復活動

団体名●池田ゼミナール、野外スポーツ部／代表者名●池田幸應(人間科学部教授)

はじめに

本学と連携協定を締結している穴水町において、特に人間科学部スポーツ学科池田ゼミナールを中心に野外教育の視点から地域資源を活かした地域活性化策へのアプローチが継続実践されている。「ボラ待ち櫓」は、穴水町の代表的なシンボルであり、2017年度、本学と首都圏の高崎経済大学、そして地元の石川県立穴水高等学校とも連携、協働し「ボラ待ち櫓」を再建した。しかし、翌年2018年において、荒天のため、そのボラ待ち櫓が一部破損し、修復が望まれていた。これに対し、以前協働した地元漁師グループ「中居七浦七入会」代表の松村政輝 氏らと共に修復活動を行った。

活動内容

今回の修復活動に際し、2017年当時、ボラ待ち櫓設置に関わった学生もまだ数名本学に在籍しており、事前に当時の活動について関連資料等で調べ把握した。また、実際に現地に行き、既存のボラ待ち櫓の状況について櫓設置に係る連携団体等との情報交換等を行った。

櫓修復に際して、連携団体との役割分担やスケジュール調整を行い、8/4に現地でのボラ待ち櫓の支柱修正、再加工した支柱の組み直しを行い、修復活動を行った。



写真 穴水湾海上での「ボラ待ち櫓」修復活動の様子

成果、結果の考察

成果としては、まず、実際にボラ待ち櫓を修復できたことが挙げられる。今回の修復活動は、「中居七浦七入会」メンバー2名と本学野外スポーツ部、池田ゼミナール学生数名のみで行われた。特に池田ゼミナール学生は、同日、同町沖波地区での沖波大漁祭りの「キリコ出し」活動にも従事しており、その活動とも並行し、ゼミナール学生を分業させた。

本活動に関わった学生は、同町のシンボリック的存在であるボラ待ち櫓の修復に尽力できたとの達成感があり、過疎高齢化が進む穴水町にとっては、本学の継続的協働参画により、地域資源のボラ待ち櫓の保全、そして地域内外への地域資源の情報発信推進により地域貢献に繋がったと言える。特にメンバーの高齢化が進む中居七浦七入会にとっては、会の活動推進にも繋がった。

また、大学側にとっても学生たちが地域課題への実践活動を通しての学びを深化させ、更に奥能登地域(穴水町)の魅力や各ゼミナールの地域連携の取り組みの周知機会に繋がった。また本学にとっても連携協定による同町との発展的な継続活動への推進に繋がった。

今後の課題、展望

本活動についての新聞、テレビ、SNS等での情報発信等により、地域住民や地域連携担当行政からも地域と大学との優良協働事例との高い評価を受けている。今後、この活動を機に同町での野外教育やアウトドアスポーツツーリズム推進に向けて、活動を継続・発展させてして行く予定である。